雜　　錄

目　　次

新刊雜誌記載參考記事目次……
業界雜報……
昭和 18 年1月中に發布された主要法令目次……
法令目次……
大東亞戰爭日記摘要……

新刊雜誌記載參考記事目次

九州鑛山學會誌 昭和 17 年 12 月

低品位マンガン鑛處理に關する研究　小川芳樹，石原赳夫　530、

電氣製鋼 第 19 卷 第 1 號

珪素-マンガン-クロム構造用鋼に就いて　錦織 清治，熊井 俊一，淺田 千秋　1

特殊鋼の質量效果に就いて（第 2 報）ニッケルクロム鋼に關する研究　清水 定吉，竹本 專一，杉 直二　17

技術評論 第 20 卷 第 1 號

馬來鐵鋼の輸送と增產對策　渡邊源一郎　12

採鑛冶金 第 21 年 第 1 報

木炭鎔鑛爐に就いて（I）　鈴木 芳郎　2

生產技術 第 29 卷 第 1 號

滿洲に於ける特殊鋼と其の使命　日下 和治　22

日本鑛業會誌 第 59 卷 第 693 號 昭和 18 年 1 月

低品位マンガン鑛石利用に關する研究　鐵合金委員會　38

理化學研究所彙報 第 21 卷 第 10 號

鐵ニッケル合金の變態速度について　岡村 俊彥，宮原 將平，廣根德太郎　985

アームコ鐵中の Cu の檢出（電子線分析）　德 光直　1000

水曜會誌 第 11 卷 第 4 號

硫化鐵及硫化滿俺の酸化分解溫度に就て　森田 志郎，梶谷禰壽男　229

朝鮮鑛業會誌 第 25 卷 第 12 號

低品位マンガン鑛處理に關する研究　小川 芳樹，石原 赳夫　57

造船協會雜纂 第 248 號 昭和 17 年 11 月

鋼船の構造規程解說（其の 8）　572

日本機械學會論文集 第 8 卷 第 33 號 昭和 17 年 11 月

炭素鋼疲勞のX線的研究　西原利夫，小林篤郎　I-194

熔接に依る鋼板構造ベツトに關する研究（第3報）　田中 義信　IV-239

發明 第 40 卷 第 1 號

鐵鋼技術者の夢　野田 一六　20

日本金屬學會誌 第 6 卷 第 12 號

鐵—コバルト合金の ΔE 效果の動的測定　山本美喜雄　581

鐵—ニッケル合金の緩急冷後の彈性率　三原金吾，王印標　592

18% Cr 不銹鋼の硝酸に對する耐酸性に就いて　松原 三德，西本 索　597

業　界　雜　報

鐵鋼統制會の機構改革

鐵鋼增產を確保する爲生產部の他に新たに整備部を置き又勤勞部と調査部を新設したこの結果從來の總務，生產，原料企畫，配給，考査，技術及び特設の 8 部が總務，生產，整備，勤勞，技術，調査及び特設の 7 部に再編される事になつた.（東京都 2 月 2 日）

滿洲の鐵增產割當量を突破

昭和製鋼及本溪湖煤鐵公司では鐵鋼の對日生產割當量を突破し優秀な成績を示してゐる.（大阪新聞 2 月 5 日）

日本的砂鐵製鋼法を愈々新年度から實施

我國の製鋼事業は今まで米國の製鋼法を模倣してゐたのでこの方法によると鐵鑛石と共に大量の屑鐵を必要としたが，この樣な形式にとらはれないで我國に於て無盡藏の砂鐵を基礎とした砂鐵製鋼法の計畫が完成され來年度から實施される事になつてゐる.（東京中外 2 月 6 日）

鐵鑛石は現地で處理し銑鐵として輸入

交易營團は海上輸送力の現狀に鑑み，鐵鑛石は現地で處理した上で銑鐵として移輸入する事にした.（日本產業經濟 2 月 14 日）

製鋼用耐火煉瓦の寸法を統一

耐火煉瓦は製鋼會社側の要求する煉瓦の形狀寸法がばらばらで煉瓦製造會社側ではこれに應じ，多種多樣のものを製造するところから，勢ひ質的低下を招來するほか生產力を低下するので鐵鋼統制會ではこれを統一品質の向上をはかれると共に數的確保を期するため鐵鋼統制會では「製鋼用煉瓦寸法統一委員會」を設置する事となつた.（日本產業經濟 2 月 14 日）

特殊鋼の原價計算樣式決る

特殊鋼現行公定價格並に停止價格は制定以來既に 3 年半余も經ちその間製造原價は變動し，鋼種品種形狀等間にも不均衡を惹起してゐるものが少くなく，種々實情に適しいものがあるので特殊鋼協議會では全鋼種に對し適正な新公定價格を制定することとし，その基礎となる「特殊鋼原價計算樣式」を決定した.（日本產業經濟 2 月 16 日）

鐵鑛石補助原料に粉鑛砂鐵を動員

鐵鋼統制會では鐵鑛石確保の爲粉鑛及び砂鐵を鐵鑛石の補助原料として使用する事に決定した. 粉鑛は從來熔鑛爐用鐵鑛石として使用せずそれぞれ製鐵工場に於いて貯鑛されてゐたものであるが，これが相當量に上つてゐるので，粉鑛を團鑛として鐵鑛石に一部配合し鐵鑛石消費節減を圖り，砂鐵に關しても熔鑛爐使用が從來研究の域を脫してゐなかつたものを，今回活用する事になつた.（日本產業經濟 2 月 17 日）

金屬回收の强化

十八年度に於ては從來と比較にならぬ大量の鐵を必要としてゐるがこれに應ずるには少量づつ非常に廣範圍から集めるのは勞力，輸送の點で困難があるので纏つたものに着眼し例へば遊覽鐵道や電柱の鐵を回收する事に決定した．（日本產業經濟 2 月 18 日）

昭和 18 年 1 月中に發布された主要法令目次

	號	事　　項	日付	官報頁
商工省告示	16	鐵鋼統制會理事長任命其他	12	129
11	21	熔接棒の最高販賣價格等中改正	14	169

大東亞戰爭日記摘要

1 月 16 日午後 3 時　大本營發表

1 月 5 日 以降同 11 日迄に於ける帝國海軍航空部隊の戰果左の如し

(1) ソロモン群島方面　擊墜破せる敵機 21 機，我が方の自爆及び未歸還機 3 機

(2) ニウギニヤ方面　擊墜破せる敵機 21 機，我が方の自爆及び未歸還機 6 機

ソロモン群島方面ニウギニヤ方面の彼我航空戰は日々苛烈な展開を示し新鋭グラマン戰鬪機及びボーイング B—17 などの重爆機を中心とする米空軍は必死となつて所謂南方進攻路のハワイ，サモアフィッジー諸島を傳つて或は空母により，この方面に增强を計ると同時に熾烈な反擊を反復し，時に我が海上輸送路に百數十機の編隊を以て來襲したこともあり，我が方はその都度これを擊退しつゝある．我が海鷲は 1 月 5 日から 11 日までの間にソロモン及びニーギニア方面で上記の如く激烈な空中戰を交へ，敵機 42 機（大型 12，飛行艇 1，水偵 1，戰鬪機 19 等）を擊墜破した．

1 月 20 日　21 日より向ふ 1 週間首相の微恙回復まで今期議會の休會を行ふ旨發表，日獨，日伊の經濟協定成る．

2 月 1 日午前 10 時大本營發表　帝國海軍航空部隊は 1 月 29 日「ソロモン」群島「レンネル」島東方に有力なる敵艦隊を發見直ちに進發惡天候を衝きて之を同島北方海面に捕捉し全力を擧げ薄暮奇襲を敢行敵兵力に大打擊を與へたり，敵は我が猛攻を受くるや轟沈として反轉南東方に遁走せんとせしが翌 30 日更に我が海軍航空部隊の晝間强襲を受けその反擊企圖は破摧せられた，本日までに判明せる戰果次の如し．戰果　戰艦 2 隻擊沈，巡洋艦 3 隻擊沈　戰艦 1 隻中破，巡洋艦 1 隻中破，戰鬪機 3 機擊墜，我が方損害　自爆 7 機，未歸還 3 機〔註〕本海戰をレンネル島沖海戰と呼稱す．

2 月 4 日午後 4 時大本營發表　帝國海軍航空部隊は 2 月 1 日ソロモン群島イサベル島南方に機動中の敵海上部隊を捕捉攻擊し又ニュージョージャ島方面に於て挑戰し來れる有力なる敵航空機群と交戰之に多大の損害を與へた．戰果左の如し．（2 月 10 日大本營發表により訂正のもの）

戰果　巡洋艦 1 隻轟沈　巡洋艦 1 隻擊沈，驅逐艦 1 隻擊沈，魚雷艇 10 隻擊沈，飛行機 86 機擊墜．我が方の損害　驅逐艦 1 隻大破，驅逐艦 2 隻中破，飛行機 12 機自爆及歸還〔註〕本海戰を「イサベル」島沖海戰と呼稱す．

2 月 9 日午後 7 時大本營發表

(1) 南太平洋方面帝國陸海軍部隊は昨年夏以來有力なる一部をして遠く挺進せしめ，敵の强靱なる反攻を柔制破碎しつゝ其の掩護下にニーギニア島及びソロモン群島の各要線に戰略的根據を設定中の處既に概ね之を完了し茲に新作戰遂行の基礎を確立せり．

(2) 右掩護部隊としてニューギニア島のブナ附近に挺進せる部隊は 1 月下旬，同しくソロモン群島ガダルカナル島に作戰中のものは 2 月上旬何れも其の目的を達成せるに據り他に轉進せしめられたり．

(3) 現在迄に判明せる戰果

敵に與へたる損害　人員 25,000 以上，飛行機擊墜破 230以上，火砲破壞 30 門以上，戰車炎上 25 臺以上

我方の損害　人員戰死及戰病死　16,734 名，飛行機自爆及未歸還 139.